



きょう いく しゃ がい こう かん へん 西暦1883～1911年
 圭介51歳～79歳
教育者・外交官編

日本の動き

- 1885年 伊藤博文が初代総理大臣になる
- 1886年 ノルマントン号事件
- 1889年 大日本帝国憲法の公布
- 1894年 日清戦争
- 1900年 足尾鉬毒事件
- 1904年 日露戦争
- 1905年 ポーツマス条約
- 1911年 清にて辛亥革命

圭介の動き

- 1886年 学習院院長になる
- 1887年 華族女学校学長を兼任する
- 1889年 清国駐在特命全権公使になる
- 1892年 朝鮮国駐劄公使を兼任する
- 1895年 下関条約締結
- 1904年 神奈川の別荘で大津波に会う
- 1907年 「如楓家訓」を出版する
- 1911年 食道がんにより亡くなる

偉人の言葉・大鳥圭介評

陸奥宗光:圭介さんほどの決心があれば、何をしていても不満は無い。



竜馬の右腕であった陸奥は、明治政府でも外務大臣となりました。圭介は陸奥に「圭介に万が一の事があつたら、その骨を拾うのは必ず陸奥である」と言われ、清及び朝鮮の大使となりました。

徳川慶喜:圭介はわしの家来じゃったが、今では大切な友じゃ。



江戸幕府最後の将軍であった慶喜は、圭介の昔の主君でした。明治となってからも圭介の別荘を訪れるなど、親交を深めています。

人材育成



圭介は留学・北海道開拓の功績を認められ、初代総理大臣となる伊藤博文に工部省の役人に任命されます。工部省でも才能を発揮した圭介は、更に内務省の役人も兼任することとなりました。

圭介は、工部大学校（現在の東京大学）の初代校長や学習院院長なども務め、後進の教育により日本を発展させようと努力します。

圭介の教え子には、京都に琵琶湖からの疏水工事をした田辺朔朗、東京駅や日本銀行を設計した辰野金吾、ダイハツを設立した安永義章など多くの著名人がいます。

圭介は公務で多忙な生活を送っていました。しかし圭介は激務の傍ら、「堰堤築報新按」というダムについての技術書を翻訳出版し、治水を民間レベルでも出来るように広めました。

工部大学校では授業を英語で行ったのはなぜでしょう？

A 当時の優れた技術はみな外国にあり、教科書はほとんどが英語で書いてありました。そして、工部大学校の初代校長は圭介でしたが、初代都検(教頭。実質的な校長)はイギリス人のヘンリー・ダイアーが務め、また教師全員が外国人だったからです。しかし、圭介はお金がかかる外国人教師を減らすために、日本人の成長を望んでいました。